

授業科目	作業療法特論Ⅲ		担当教員	山田 里見		
対象年次・学期	4年・後期		必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態			授業回数	38回	時間数	
授業目的	国家試験対策として共通分野の内容を各教員が分担して講義を行う。講義を行うことで学習の焦点化が図られ、模擬試験や国家試験に繋がることを目的とする。					
到達目標	国家試験に向けて、共通基礎分野の解剖学・運動学・生理学を中心に知識をつけ、確実に解答を導けるようにすること。					
テキスト・参考図書等	必修ポイント（基礎医学）、からだが見える（人体の構造と機能）					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	授業後に行われるポストテストにより評定する			
	レポート	0				
	小テスト	100				
	提出物	0				
	その他	0				
履修上の留意事項	1年から4年までの基礎的な内容の復習を兼ねた講義を実施します。基礎の理解なくして応用問題を考えることは難しいと思います。理解を深めましょう。この段階では、国試対策図書ではなく教科書をベースに学習を進めていくことを基本とします。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	2	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	3	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	4	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	5	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	6	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	7	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	8	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	9	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	10	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	11	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	12	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	13	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			
	14	国家試験対策	国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学）の内容を学ぶ。			

			運動学)の内容を学ぶ。
15	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
16	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
17	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
18	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
19	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
20	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
21	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
22	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
23	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
24	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
25	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
26	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
27	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
28	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
29	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
30	国家試験対策		国家試験対策として共通分野（解剖学、生理学、運動学)の内容を学ぶ。
31			

授業科目	作業療法特論Ⅲ	担当 教員 実務 経験	山田里見 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 6 年勤務
対象年次・学 期	4 年・後期	担当 教員	柿崎貴浩	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老 健施設に 1 年勤務
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	目黒文彦 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法 士として 14 年勤務
		担当 教員 実務 経験	小熊真喜子 有：■ 無： □	道内病院において作業療法 士として勤務
		担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法 士として 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	池田保 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 5 年勤務
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	作業療法実践論	担当教員	木村 明博		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	作業療法のトピックス領域を学習することにより、作業療法アプローチの理解を深める。講義から実習までの流れは、臨床における治療プログラムの立案から実践へと繋がる広がりをもてるようになる。				
到達目標	授業で取り上げた作業療法のトピックスに関する知識を有するようになる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	講義内容に関するまとめを提出課題とし、その内容によって評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	卒業後の臨床における治療概念を知ることで、プログラム立案に繋がる知見を紹介します。臨床活動に入る直前のモチベーション向上にも繋げてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	身体障害領域における実践①	トピックス治療概念の講義と実習を合わせて行う。		
	2	身体障害領域における実践①	トピックス治療概念の講義と実習を合わせて行う。		
	3	身体障害領域における実践③	トピックス治療概念の講義と実習を合わせて行う。		
	4	老年期障害領域における実践①	トピックス治療概念の講義と実習を合わせて行う。		
	5	人間作業モデル①	トピックス治療概念の講義を行う。		
	6	人間作業モデル②	トピックス治療概念の講義を行う。		
	7	精神科領域における実践①	トピックス治療概念の講義を行う。		
	8	精神科領域における実践②	トピックス治療概念の講義を行う。		
	9				

授業科目	作業療法実践論	担当 教員 実務 経験	目黒 文彦 有：■ 無： □	
対象年次・学 期	4 年・通年	担当 教員	塚田 えりか	
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	山田 孝 有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	木村 明博 有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	寺島 正啓 有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	山田 里見 有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	和田 英峰 有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	作業療法特論Ⅰ		担当教員	山田 里見	
対象年次・学期	作業療法学科 4年 前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	過去に実施された国家試験問題や模擬試験を基にグループ学習を進める。グループ学習は出題形式や要点理解を共有することを目的としている。				
到達目標	国家試験問題や模擬試験問題を解く知識を有することになる。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント（基礎医学）、からだが見える（人体の構造と機能）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	40	第1回卒業試験の結果と授業後に行われるポストテストの提出により評定する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物	60			
その他					
履修上の留意事項	共通基礎科目の理解にはグループで理解を深めることが効果的です。また、その日に学習した内容を復習することが国家試験へと繋がります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（中枢神経）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	2	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（末梢神経）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	3	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（中枢・抹消神経）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	4	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（循環器）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	5	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（循環器）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	6	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（呼吸器）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	7	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（消化器）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	8	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（泌尿器）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	9	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（骨格筋）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	10	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（感覚）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	11	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（神経系・末梢神経）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	12	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（上肢帯と上肢の運動）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	13	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（上肢帯と上肢の運動）に焦点を当てたグループ学習を進める。		
14	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（下肢帯と下肢の運動）に焦点を当てたグループ学習を進める。			

	15	グループ学習による国家試験対策	共通基礎科目（下肢の運動と下肢の神経支配）に焦点を当てたグループ学習を進める。
	16		

授業科目	作業療法特論Ⅰ	担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 8 年勤務
対象年次・学 期	作業療法学科 4 年 前 期	担当 教員	柿崎貴浩	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老 健施設に 1 年勤務
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	目黒文彦 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法 士として 14 年勤務
		担当 教員 実務 経験	小熊真喜子 有：■ 無： □	道内病院において作業療法 士として勤務
		担当 教員 実務 経験	山田里見 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 6 年勤務
		担当 教員 実務 経験	池田保 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 5 年勤務
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	臨床実習Ⅲ		担当教員	山田 里見	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	臨床実習指導者の下で担当患者に評価、問題点の抽出、治療プログラムの立案を行う。作業療法士として必要な情報収集や記録ができる。作業療法部門の管理・運営方法を理解し、協調性のある行動が取れる。				
到達目標	対象者との適切な関係を築くことができる、対象者の状態に合わせた情報収集、評価、全体像の把握、作業療法目標設定ができる。 実習指導者の指導の下、治療プログラム立案とその実施を行う経験を積む。				
テキスト・参考図書等	特に指定はないが、対象者の症状、状態、関わりの段階に合わせて 1～3 年次に使用してきた教科書や授業資料を活用する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	臨床教育者の評価（40%）と作業療法学科教員の評価（60%）を合わせて総合的に評価し、60%以上を合格とする。ただし、実習期間での学生評価項目にて D 以下の判定が 8 個以上（25%以上）の場合は不合格と判断される。 評価項目（実習施設） 1.評価準備 2.評価実施 3.評価の解釈・目標設定 4.報告・連絡・相談 5.作業療法計画・実施 6.職業人としての資質・適性 7.管理運営 評価項目（学校） 1.実習前セミナー評価点 2.実習後セミナー評価点 3.サマリー発表会		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	学生として最後の実習となります。悔いが残らないよう対象者第一に考え行動し、充実した実習して下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【第 1 回】 実習前評価	直接患者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを実習前セミナー期間中に確認する。		
	2	【第 2-202 回】 臨床実習	臨床実習施設において、臨床教育者の指導の下、実習を行う。 本学で習得した知識・技術、およびこれまでの臨床実習において学んだことを総合して応用・活用し、症例を通じて初期評価から治療・再評価・治療プログラムの再検討までの流れを体験する学習の機会とする。 ・適切な情報収集と評価を実施する。 ・得られたデータを整理し、総合的に分析して問題点を把握し、治療目標を樹立する。 ・治療目標に沿った作業療法プログラムを作成し実施する。 治療、訓練に対する再評価を実施し、問題点、治療目標、治療プログラムの再検討を実施し、それに伴って治療目標を樹立する。		
	3	【第 203 回】 実習後評価	実習における教育成果の判定にはサマリー発表の内容や提出物について確認し、臨床教育者評価と教員評価とを合わせて総合的に判定する。		

授業科目	臨床実習Ⅲ	担当 教員 実務 経験	山田里見 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 6 年勤務
対象年次・学 期	4 年・前期	担当 教員	柿崎貴浩	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老 健施設に 1 年勤務
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無： □	市内病院にて作業療法士と して 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	小熊真喜子 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して勤務
		担当 教員 実務 経験	目黒文彦 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法 士として 14 年勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無： □	市内病院・介護保険施設に て作業療法士として 5 年勤 務
		担当 教員 実務 経験	池田保 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	臨床教育者 有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	救急救命学	担当教員	三上 剛人		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	臨床場面でのリスク管理の一環として、救急法について知識・理解を深めると共に、基本的手技も併せて経験する。				
到達目標	救急法について理解する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	緊急時対応は突然必要になります。いざという場面で必要になる知識と技術であることを念頭に、授業を受けてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	救急法概論	医師法と一般応急手当と基礎知識		
	2	救急法概論	ビデオ、スライド使用		
	3	各パートについて	出血、止血法、傷への対応		
	4	各パートについて	三角巾の扱い方		
	5	各パートについて	凍傷、火傷、咬傷、気道の確保		
	6	各パートについて	頭のケガ、閃電、電撃		
	7	各パートについて	蘇生法（人工呼吸）		
8	各パートについて	蘇生法（心マッサージ）			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	作業療法特論Ⅱ		担当教員	山田 里見	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	過去に実施された国家試験問題や模擬試験を基にグループ学習を進める。グループ学習は出題形式や要点理解を共有することを目的としている。				
到達目標	国家試験問題や模擬試験問題を解く知識を有することになる。				
テキスト・参考図書等	配布プリントなど				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	模擬試験結果を加味して評定する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他				
履修上の留意事項	共通基礎科目の理解にはグループで理解を深めることが効果的です。また、その日に学習した内容を復習することが国家試験へと繋がります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	2	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	3	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	4	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	5	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	6	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	7	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	8	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	9	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	10	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	11	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	12	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
	13	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。		
14	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。			

	15	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	16	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	17	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	18	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	19	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	20	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	21	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	22	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	23	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	24	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	25	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	26	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	27	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	28	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	29	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。
	30	グループ学習による国家試験対策と模擬試験	共通基礎科目に焦点を当てたグループ学習を進める。

授業科目	作業療法特論Ⅱ	担当 教員 実務 経験	山田里見 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 6 年勤務
対象年次・学 期	4 年・通年	担当 教員	柿崎貴浩	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老 健施設に 1 年勤務
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	目黒文彦 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法 士として 14 年勤務
		担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法 士として 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	小熊真喜子 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して勤務
		担当 教員 実務 経験	池田保 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 5 年勤務
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	作業療法演習Ⅱ		担当教員	山田 里見	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	臨床実習に先立って、評価項目チェックリスト作成、評価結果のまとめ、ICF 分類、目標設定、治療プログラム立案とそこに至る思考過程を表出する練習を行う。また評価技術、治療技術等の練習を行う。				
到達目標	臨床実習に向けて、情報収集の方法、評価結果のまとめ方、ICF 分類と作業療法目標設定、治療プログラム立案が可能になる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	提出課題 90%、振り返り用紙課題 10%で評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	今までに学んだ知識や理解を総動員して対象者イメージを膨らませてほしい。また、毎回の課題提出が求められます。臨床実習をイメージして各自しっかりと取り組むことを期待する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	オリエンテーション		
	2	精神障害・身体障害分野での症例検討①	症例検討とグループ検討		
	3	精神障害・身体障害分野での症例検討③	症例検討とグループ検討		
	4	精神障害・身体障害分野での症例検討④	症例検討とグループ検討		
	5	精神障害・身体障害分野での症例検討⑤	症例検討とグループ検討		
	6	臨床実習に必要な評価と治療①	それぞれの障害別に評価や治療の実技練習を実施		
	7	臨床実習に必要な評価と治療②	それぞれの障害別に評価や治療の実技練習を実施		
	8	臨床実習に必要な評価と治療③	それぞれの障害別に評価や治療の実技練習を実施		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	作業療法特論Ⅳ		担当教員	山田 里見		
対象年次・学期	4 年・後期		必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態			授業回数		時間数	
授業目的	国家試験合格へ向けた総合的な学習を進める。学習範囲を国家試験に出題される全範囲に広げ知識獲得にむけ学習する。単に国家試験合格を目的にするのではなく、これまで学んできた内容を復習し、今後の臨床活動に結び付けられる理解の機会とする。模擬試験を通して自己の課題分析を行い、個々の学習内容や方法を進めていく。					
到達目標	国家試験に向けて、出題範囲全体の知識を付け、解答を導き出せるようにする。					
テキスト・参考図書等	必修ポイント（基礎医学・臨床医学・基礎 OT 学・OT 治療学）、配布資料					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	100	卒業試験の結果を踏まえ、最終評価を行う。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	0				
	その他	0				
履修上の留意事項	4 年間の総復習にあたります。学習範囲が広く、復習を繰り返すことが多くなります。疑問は溜めこまず、その場で解消することが極めて重要です。しっかりと学習しましょう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	2	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	3	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	4	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	5	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	6	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	7	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	8	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	9	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	10	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	11	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	12	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			
	13	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。			

[illegible]

	43	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	44	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	45	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	46	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	47	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	48	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	49	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	50	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	51	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	52	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	53	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	54	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	55	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	56	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	57	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	58	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	59	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。
	60	国家試験対策	国家試験対策として共通分野と専門分野の内容を学ぶ。

授業科目	作業療法特論Ⅳ	担当 教員 実務 経験	山田里見 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 6 年勤務
対象年次・学 期	4 年・後期	担当 教員	柿崎貴浩	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老 健施設に 1 年勤務
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	池田保 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無： □	市内病院にて作業療法士と して 5 年勤務
		担当 教員 実務 経験	小熊真喜子 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して勤務
		担当 教員 実務 経験	山田里見 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 6 年勤務
		担当 教員 実務 経験	飯島治之 有：■ 無： □	医学博士を有し解剖学講師 として 1 0 年以上従事
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	地域作業療法学Ⅱ		担当教員	和田 英峰	
対象年次・学期	4年・前期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	生活行為向上マネジメントを用いた演習、作業療法士としての行動を考える。また、社会保障の具体的な理解と介護保険における作業療法士の役割を考える。また、PBLをベースにした学習により臨床思考を深める。				
到達目標	地域作業療法における社会保障制度と、生活行為向上マネジメントに関する知識を有することになる。				
テキスト・参考図書等	事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント（第2版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	100	定期試験にて評定する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	地域の中で医療従事者である作業療法士はどのような働きができるかについて、講義・演習形式で進める中で発問の機会を設けます。特に、演習形式では自らの考えを発信するように努めてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	地域作業療法学総論	地域における作業療法士の役割を理解する。		
	2	介護保険制度の実態①	介護保険制度について理解する。各地域における介護保険事業所数などの実態を理解する。		
	3	介護保険制度の実態②	介護保険制度について理解する。対象者の状態、介護度に合わせた介護保険サービスを立案する。		
	4	介護保険制度の実態③	介護保険制度について理解する。対象者の状態、介護度に合わせた介護保険サービスを立案する。		
	5	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムを理解する。作業療法士が地域でどのように関わるのかについて理解する。		
	6	地域リハビリテーションの実態①	訪問リハビリテーションについて（実践経験に基づく講義）		
	7	地域リハビリテーションの実態②	訪問リハビリテーションについて（実践経験に基づく講義）		
	8	地域リハビリテーションの実態③	介護老人保健施設の作業療法について		
	9	地域リハビリテーションの実態④	医療保険における小児領域の訪問リハビリテーションについて		
	10	MTDLP 演習課題①	地域で問題を抱える模擬症例から作業療法士としての役割を見つける。また、社会資源と生活の関係性について理解する。		
	11	MTDLP 演習課題②	地域で問題を抱える模擬症例から作業療法士としての役割を見つける。また、社会資源と生活の関係性について理解する。		
	12	MTDLP 演習課題③	地域で問題を抱える模擬症例から作業療法士としての役割を見つける。また、社会資源と生活の関係性について理解する。		

	13	MTDLP 演習課題④	地域で問題を抱える模擬症例から作業療法士としての役割を見つける。また、社会資源と生活の関係性について理解する。
	14	MTDLP 演習課題⑤	地域で問題を抱える模擬症例から作業療法士としての役割を見つける。また、社会資源と生活の関係性について理解する。
	15	総まとめ	介護保険制度、地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメントについて国家試験問題を解き復習して理解する。

授業科目	地域作業療法学Ⅱ	担当教員	和田英峰	道内医療機関にて作業療法士として 8 年勤務
		実務経験	有： ☒ 無： ☐	
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員	青戸恵利伽	道内病院・介護保険施設において 5 年作業療法士として勤務
授業形態		実務経験	有： ☒ 無： ☐	
		担当教員	佐々木喜之	道内病院・訪問看護ステーションにおいて 14 年作業療法士として勤務
		実務経験	有： ☒ 無： ☐	
		担当教員	檜山晴香	道内病院において 9 年作業療法士として勤務
		実務経験	有： ☒ 無： ☐	
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	情報科学Ⅲ		担当教員	山田 里見	
対象年次・学期	4 年・通年		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	8 回	時間数
授業目的	卒業論文発表に向けたプレゼンテーション用資料（Power Point）を作成する。卒業論文の内容を効果的に伝えられるようなスライド作成方法を学ぶ。卒業論文発表会に作成したスライドを利用し、内容を聴講者に伝える。				
到達目標	卒業論文発表に向けたプレゼンテーション資料の作成からスライド作成方法に関する知識を有するようになる。				
テキスト・参考図書等	配布プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	卒論提出および卒論発表会の内容で評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
	その他	40			
履修上の留意事項	卒業後も Microsoft PowerPoint を使用したスライド作成機会が多くあります。分かりやすいプレゼンテーションのポイントを理解し、卒業論文発表資料作成の過程を今後に活かして下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	卒業論文用のスライド作成、卒業論文発表会	Microsoft Power Point を使用し、卒業論文用のスライド作成を行う。卒業論文発表会の規定時間に適した内容にスライドをまとめる。卒業論文発表会にて、聴講者へ分かりやすく内容を伝える。		
	2	卒業論文用のスライド作成、卒業論文発表会	Microsoft Power Point を使用し、卒業論文用のスライド作成を行う。卒業論文発表会の規定時間に適した内容にスライドをまとめる。卒業論文発表会にて、聴講者へ分かりやすく内容を伝える。		
	3	卒業論文用のスライド作成、卒業論文発表会	Microsoft Power Point を使用し、卒業論文用のスライド作成を行う。卒業論文発表会の規定時間に適した内容にスライドをまとめる。卒業論文発表会にて、聴講者へ分かりやすく内容を伝える。		
	4	卒業論文用のスライド作成、卒業論文発表会	Microsoft Power Point を使用し、卒業論文用のスライド作成を行う。卒業論文発表会の規定時間に適した内容にスライドをまとめる。卒業論文発表会にて、聴講者へ分かりやすく内容を伝える。		
	5	卒業論文用のスライド作成、卒業論文発表会	Microsoft Power Point を使用し、卒業論文用のスライド作成を行う。卒業論文発表会の規定時間に適した内容にスライドをまとめる。卒業論文発表会にて、聴講者へ分かりやすく内容を伝える。		
	6	卒業論文用のスライド作成、卒業論文発表会	Microsoft Power Point を使用し、卒業論文用のスライド作成を行う。卒業論文発表会の規定時間に適した内容にスライドをまとめる。卒業論文発表会にて、聴講者へ分かりやすく内容を伝える。		
	7	卒業論文用のスライド作成、卒業論文発表会	Microsoft Power Point を使用し、卒業論文用のスライド作成を行う。卒業論文発表会の規定時間に適した内容にスライドをまとめる。卒業論文発表会にて、聴講者へ分かりやすく内容を伝える。		

	8	卒業論文用のスライド作成、卒業論文発表会	Microsoft Power Point を使用し、卒業論文用のスライド作成を行う。卒業論文発表会の規定時間に適した内容にスライドをまとめる。卒業論文発表会にて、聴講者へ分かりやすく内容を伝える。
	9		

授業科目	情報科学Ⅲ	担当 教員 実務 経験	山田里見 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 6 年勤務
対象年次・学 期	4 年・通年	担当 教員	柿崎貴浩	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老 健施設に 1 年勤務
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員 実務 経験	目黒文彦 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法 士として 14 年勤務
		担当 教員 実務 経験	小熊真喜子 有：■ 無： □	道内病院において作業療法 士として勤務
		担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法 士として 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	池田保 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士と して 5 年勤務
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	レクリエーション指導法	担当教員	山田 里見		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	レクリエーションの範囲・種類を明確に理解できる。作業療法的手段として利用する目的を理解する。対象者に合せたレクの企画・実施が出来る。				
到達目標	作業療法におけるレクリエーションに関する知識を有することになる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	提出物は、課題提出状況および、課題の内容、レク企画の内容、実践方法などを評価します。 その他は、レクの実施状況（準備、実施手順など）を評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
	その他	50			
履修上の留意事項	レクリエーションを企画する中での協調性、提供する相手を想像した企画案を期待します。全員が平等に楽しむための配慮も考え、各個人の特性を生かして企画・役割分担をしてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	レクリエーション概論	今後の予定、レクリエーションの基本概念		
	2	レクの企画・準備	大規模集団におけるレクの企画・準備		
	3	レクの企画・準備	大規模集団におけるレクの企画・準備		
	4	レクの企画・準備	大規模集団におけるレクの企画・準備		
	5	レクの企画・準備	大規模集団におけるレクの企画・準備		
	6	レクの企画・準備	大規模集団におけるレクの企画・準備		
	7	レクの実践	大規模集団におけるレクの企画・準備、（作業療法学科合同レクリエーション）		
	8	レクの実践	大規模集団におけるレクの企画・準備、（作業療法学科合同レクリエーション）		

授業科目	レクリエーション指導法	担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法士として 8 年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当 教員	柿崎貴浩 有：■ 無： □	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老健施設に 1 年勤務
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験	目黒文彦 有：■ 無： □	道内医療機関にて作業療法士として 14 年勤務
		担当 教員 実務 経験	小熊真喜子 有：■ 無： □	道内病院において作業療法士として勤務
		担当 教員 実務 経験	山田里見 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士として 6 年勤務
		担当 教員 実務 経験	池田保 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士として 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無： □	道内病院にて作業療法士として 5 年勤務
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	健康増進科学	担当教員	武田 祐貴		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	健康増進に必要な運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。				
到達目標	適切な運動・栄養・休養を日常生活に効果的または安全に取り入れる方法について理解する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	毎回の授業終了時に行う小テストにより評価する。 合計点が 6 割以上のものを合格とする。		
	レポート	0			
	小テスト	100			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	健康寿命の延伸は社会の要請であり、理学療法士・作業療法士はこれに応えていく必要がある。そのために必要な運動や栄養学の視点と予防的取り組みの視点を得ること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	予防リハビリテーション概説			
	2	予防リハビリテーションの理解と実際			
	3	近年における予防の動向			
	4	介護予防事業			
	5	認知症予防、精神疾患の予防			
	6	栄養学からみた予防リハビリテーション			
	7	栄養学からみた予防リハビリテーション			
	8	災害医療、災害リハビリテーションの概要			

授業科目	健康増進科学	担当教員	池田保	道内病院にて作業療法士として 10 年勤務
		実務経験	有：■ 無：□	
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員	武田祐貴	市内脳神経外科病院にて 12 年間勤務
授業形態		実務経験	有：■ 無：□	
		担当教員	横野裕行	道内・外の病院で理学療法士として 8 年勤務
		実務経験	有：■ 無：□	
		担当教員	田口裕紀子	札幌医科大学保健医療学部看護学科にて勤務
		実務経験	有：■ 無：□	
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	統計処理	担当教員	目黒 文彦		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	研究論文に示されているデータの意味を理解する。各種尺度の理解、有意差の意味、検定方法の選択方法を理解する。				
到達目標	データの種類（尺度）に合わせた検定方法がわかる				
テキスト・参考図書等	PT・OT のための統計学入門				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、代表値・尺度	3つの代表値（平均値、中央値、最頻値） データの尺度（項目尺度、順位尺度、間隔尺度、比例尺度）		
	2	データの分布	分散、標準偏差、正規分布		
	3	相関がある／ない	相関とはなにか 相関係数について		
	4	相関がある／ない、差がある／ない	相関とはなにか 相関係数について 差の有意性について		
	5	検定方法①	平均値検定		
	6	検定方法②	ノン・パラメトリック検定（マン・ホイットニー検定、ウィルコクソン検定）		
	7	検定方法③	項目尺度のデータに対する検定（ χ^2 乗検定）		
	8	検定方法④	例題を通して、検定方法の理解を深める		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

